

農薬研究の現場から



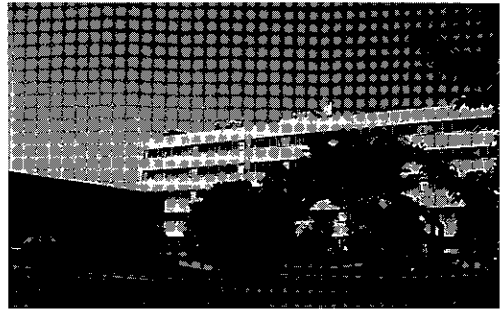
農薬研究施設紹介 (12)

三井化学株式会社
機能化学品研究所

ふもと やす のり
麓 康 紀

所在地：千葉県茂原市東郷 1144

Message from Our Research Site. Mitsui Chemicals, Inc. By
Yasunori FUMOTO
(キーワード：農薬研究，農薬開発)



機能化学品研究所研究本館

I 三井化学の研究拠点・組織

三井化学では、1998年から研究開発拠点の統合を開始し、2002年に千葉県の内房に関連会社を含め約1,000名という国内最大規模の研究開発拠点「袖ヶ浦センター」を完成させた。研究開発組織は、「コーポレート研究所」と「事業グループ研究所」に大別され、組織横断的な技術シナジーを追求する研究開発に取り組んでいる(図-1)。「コーポレート研究所」には、「触媒科学研究所」、「マテリアルサイエンス研究所」、「生産技術研究所」があり、化学の次世代を見据えた基盤技術開発、材料開発、プロセス開発等の全社共通研究を担っている。一方、「事業グループ研究所」には、「機能樹脂研究所」、「機能材料研究所」、「機能化学品研究所」があり、コア事業の維持・強化・拡大に資する製品の研究開発に取り組んでいる。農薬の研究開発は「機能化学品研究所」で行われ、原体の創製研究は農業化学品グループが、製剤開発研究は三井化学クロップライフ(株)技術部がそれぞれ担当している。温室や圃場を有する「機能化学品研究所」の主要拠点は、九十九里地区の茂原市に位置している。茂原市は

良質な天然ガス資源を有し、近隣に雄大な外房の海を望む歴史と緑豊かな街である。

II 機能化学品研究所の沿革

「袖ヶ浦センター」設立に先駆け、1990年に神奈川県横浜市と茅ヶ崎市に分散していた農薬を含むライフサイエンス関連の研究機能を集約し、千葉県茂原市に「ライフサイエンス研究所」が設立された。その後「ライフサイエンス研究所」は、2003年の組織改正に伴い「機能化学品研究所」となり、農業化学品に加え、精密化学品と高屈折率メガネレンズ等のビジョンケア材料の研究開発を担うこととなった。また、2005年7月には、製剤品事業会社である三井化学クロップライフが設立された。

III 主要な業績・エピソード

当社は、戦前からクロロピクリンなどの農薬を生産していたが、食糧増産や農作業の重労働からの解放を通して社会に貢献すべく、1950年代に入ると殺虫剤、除草剤などの導入品により農薬事業の基盤を築いた。その後、本格的に自社開発を展開し、1960～70年代

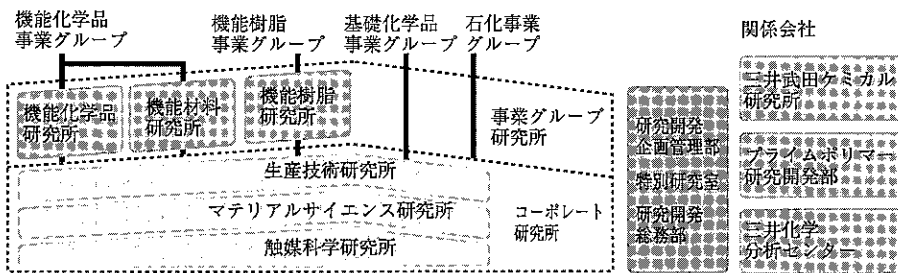


図-1 三井化学 R & D 体制